■賓賓閣跡周辺図

07.03

R100 PRINTED WITH SOY INK
古紙配合率100%再生紙及び大豆油インキを使用しています。

ひたちなか市指定文化財　史跡

# 賓賓閣跡

ひたちなか市指定文化財 天然記念物
湊御殿の松

ひたちなか市教育委員会

ひたちなか市指定文化財　史跡

# 賓賓閣跡

【いひんかくあと】

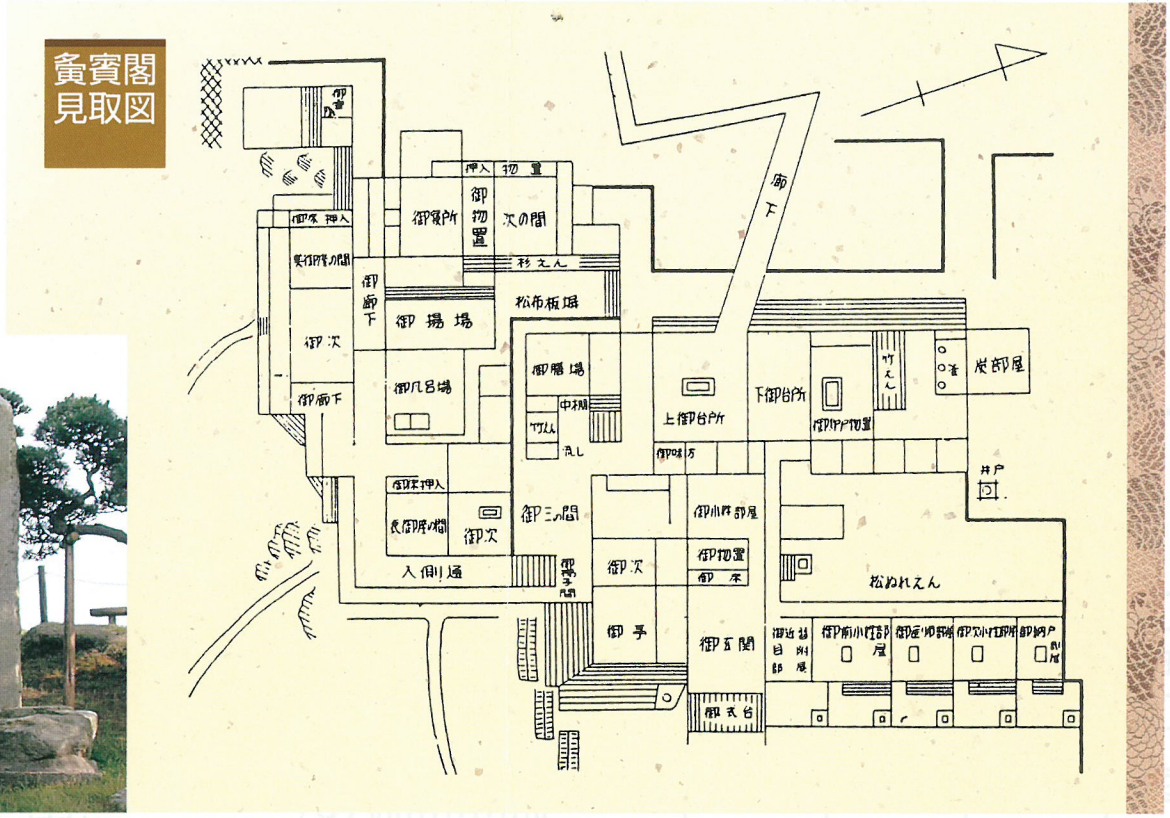
ひたちなか市指定文化財 天然記念物

## 湊御殿の松

賓賓閣は、水戸藩第2代藩主徳川光圀が山ノ上台地の東方、日和山と呼ばれる場所へ建てた別館のことです。元禄10年（1697）に建設を開始し、元禄11年に完成、中国の書物である『尭典』の「賓賓日出」（つつしんで日の出ずるをみちびく）という一文から名称を採りました。客待所の意味があるといわれています。なお、史料のなかでは、「湊別館」「湊御殿」「お浜御殿」などとも記載されています。

もともと那珂湊には、天正18年（1590）以降、旧北水主町（現在の湊中央1丁目）付近には佐竹氏の別荘があったといわれ、水戸藩成立後も使用されていました。この機能を拡大して、この賓賓閣が建設されたと考えられます。

建物は日和山の西側にあり、増築が数回行われたようで、建坪約1,000㎡、御座の間、寝所、風呂場、近習目附部屋、小姓部屋、医師部屋、鷹匠部屋など28室に及び、地形を利用した高低2段の構造でした。那珂湊の町並みを見下ろすほか、那珂川の河口を望み、条件が良いと富士山をも見ることができる絶景の地です。歴代藩主も帰藩の際に訪れており、酒宴や詩歌の会が催されました。

幕末の農学者の長島尉信は天保10年（1839）に訪れており、部屋の様子や庭の様子を細かく観察し記録している中に「賓賓閣へ登る」と記載しており、2段構造であった様子もわかります。しかし、建物は元治甲子の乱の際（1864年）にすべて焼失してしまい、残されている資料も非常に少ないため、外観や構造の多くの点で詳細が不明です。

現在、跡地は湊公園として整備されており、当時の面影を残すものとして、築山と庭石があるほか、黒松の老木が12株残っています。この松が「湊御殿の松」で、光圀公が須磨明石（兵庫県明石市）から取り寄せて移植したといわれています。市内はもとより県内でも巨松、老松がほとんど姿を消した今日、非常に貴重な松になっています。